

学習指導要領		スタンダード「基礎」
(1) 世界史への扉 ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。 イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。 ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。	自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人類は、自然環境の制約を受けると同時に、自然環境に積極的に働きかけ、適応すべき諸手段を開発してきたことを理解し、世界史学習における地理的視点の重要性に気付く。 ・日本と世界の諸地域の間、相互の接触・交流の結果もたらされた多くの歴史的事例があることを理解し、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付く。 ・世界の人々の身近に存在し、日常的に利用したり、習慣化したりしている事柄について、その起源や変遷などを理解し、日常生活から世界の歴史がとらえられることに気付く。
	(2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。	人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
[西アジアの地理的特質とオリエント文明] ・オリエント文明においては、大河を利用した治水・灌漑を行うために、宗教的権威による神権政治が出現したことを理解する。 ・メソポタミアにおける諸民族の興亡、エジプトの統一国家の形成、東地中海の諸民族の活動を理解するとともに、オリエント文明の特徴を把握する。 [イラン人の活動] ・オリエント世界がアケメネス朝によって統一されるまでの歴史的経緯を理解する。	[西アジアの地理的特質とオリエント文明] ・オリエント文明の発達の仕組みを、西アジアの地理的特質や灌漑農業、政治権力の確立などから説明できる。 ・メソポタミアとエジプトにおける文明の発達の歴史的過程を比較し、それぞれの特徴を理解する。 [イラン人の活動] ・アケメネス朝の統治について、政治体制、経済政策、異民族支配などの面から理解する。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>イ 南アジア世界・東南アジア世界</p> <p>南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ササン朝がイラン文明を広く東西に伝えたことを知る。 <p>[地中海世界の地理的特質とギリシア・ローマ文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地中海一帯が温暖で冬季は降雨があるが、夏季は乾燥した気候であり、地中海を利用した交易が発達していたことを知る。 ・オリエント文明の影響を受けてエーゲ文明が形成されたこと、ポリスを中心とするギリシア文明が形成されたことを知る。 ・重装歩兵として国防において大きな役割を果たすようになった平民の発言力が増し、アテネにおいて民主政が成立していったことを知る。 ・ギリシア文明がアレクサンドロスの遠征で西アジア一帯に伝えられたことを知る。 ・都市国家から出発したローマが地中海の周辺地域を征服し、大帝國を建設したことを知る。 ・キリスト教の成立と展開を知る。 <p>[南アジアの地理的特質]</p> <p>多様な自然条件にある南アジアが、モンスーンの影響を受ける点で共通性をもっており、降水量の多少に応じた農耕が展開されて多様な農産物が作られてきたことを知る。</p> <p>[インダス文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モエンジョ=ダーロとハラッパー遺跡から、インダス文明が明確な都市計画に基づいて建設された都市文明であったことを知る。 <p>[アーリヤ人の進入後の南アジアの文化、社会、国家の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アジアに侵入したアーリヤ人が定住して諸国家を形成し、やがてマウリヤ朝やグプタ朝などの帝國を樹立したこと、デカン高原に非アーリヤ人王朝が成立し、南アジア北部の文明を受け入れつつ、海上交易に活躍したことを知る。 ・バラモン教がヴァルナ制度と結び付き、後のカースト制度の枠組みとなったことを知るとともに、ヒンドゥー教とカースト制度が南アジア世界に統

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<ul style="list-style-type: none"> ・アレクサンドロス大王死後の西アジア世界におけるパルティア、ササン朝の興亡とゾロアスター教などのイラン文明の特徴を理解する。 <p>[地中海世界の地理的特質とギリシア・ローマ文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地中海一帯の土壌と農業の特徴から、地中海の交易が発達した理由を理解する。 ・エーゲ文明の特徴、ポリスの形成過程、ポリス社会の特徴を理解する。 ・アテネにおける民主政の成立過程を、ペルシア戦争を含めて理解するとともに、ポリス社会の衰退の過程を理解する。 ・ポリスの変容からヘレニズム世界の形成までの歴史的過程を理解する。 ・ローマ帝國の興亡の歴史的過程を政治制度の推移や征服活動などから理解する。 ・キリスト教の迫害から国教化に至る過程を皇帝崇拜との関係から理解する。 <p>[南アジアの地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央アジア・西アジアと西北インドを結ぶカイバール峠越えの道の重要性を理解する。 <p>[インダス文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡から出土した品々から、インダス文明の特徴を理解する。 <p>[アーリヤ人の進入後の南アジアの文化、社会、国家の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北インドにおけるマウリヤ朝・クシャーナ朝・グプタ朝・ヴァルダナ朝などの古代王朝の変遷と各王朝の支配領域と文化的特徴や、デカン高原以南のドラヴィダ系の地域におけるローマ帝國との交易関係について理解する。 ・「インド教」とも呼ばれるヒンドゥー教の成立過程とその特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ササン朝の周辺諸国との興亡を理解するとともに、イラン文明の東西への伝播について具体的事例を挙げて説明できる。 <p>[地中海世界の地理的特質とギリシア・ローマ文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代地中海世界が一つの文化圏を形成した理由を地中海世界の地理的特質などから理解する。 ・ポリス社会の特徴を、代表的なポリスであるアテネとスパルタを比較して説明できる。 ・アテネ民主政の特徴を現代の民主政と比較して説明できるとともに、ポリス社会衰退の原因を説明できる。 ・ギリシア文化とヘレニズム文化の特徴について具体的事例を挙げて説明できる。 ・ローマ法が市民法から万民法に発展する過程について、市民権の拡大という観点から理解する。 ・キリスト教の国教化、教義統一の過程、ローマ帝國の統治理念の形成について理解する。 <p>[南アジアの地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南インドの複雑な民族構成が歴史的経緯の中で生まれてきたことを理解する。 <p>[インダス文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インダス文明がインド文明の源流をなすと考えられている理由を具体的な事例を挙げて説明できる。 <p>[アーリヤ人の進入後の南アジアの文化、社会、国家の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アショーカ王とカニシカ王の事績、ガンダーラ様式とグプタ様式の相違、インド古典文化がイスラーム世界に与えた影響などについて具体的事例を挙げて説明できる。 ・ヒンドゥー教がインド社会に定着していった歴史的背景を説明できる。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>一性を与えていたことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教の成立と諸地域への伝播を知るとともに、南アジアの仏教がヒンドゥー教に吸収されて衰退していったことを知る。 <p>[東南アジアの地理的特質と国家形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアが半島部と島嶼部からなり、モンスーンの影響を受ける中で海路などを利用した交易活動を盛んに展開してきたことを知る。 ・東南アジアの諸民族が、南アジア文明や中華文明の影響を受けながら、海上交易の拡大に伴って港市を形成し国家を誕生させたことを知る。 <p>[東アジアの地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアが主にモンスーン気候地帯に属し、農耕を中心とした生業が営まれてきたことを知る。 <p>[中華文明の起源と秦・漢帝国]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄河・長江流域の新石器文化や殷・周の成立、漢字の起源を知る。 ・春秋戦国時代の経済や文化の発展について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・秦・漢帝国の成立と統治体制の特徴、周辺諸国との冊封体制について知る。 <p>[内陸アジアの地理的特質と遊牧国家の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内陸アジアの大半が乾燥地帯であり、草原とオアシスで活動する遊牧民とオアシス民とが共存・共生の関係にあったことを知る。 ・匈奴について、文化や軍事力を知るとともに、オアシス都市の覇権をめくり漢と長期の抗争を続けたことを知る。 ・遊牧民の華北進出と華北住民の江南への移住を知るとともに、遊牧民の定住化や均田制などの新しい傾向が見られたことを知る。 <p>[唐帝国と東アジア諸民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊牧民と漢人の融合、内陸アジアでの遊牧国家突厥の成立などを背景に、中国で隋・唐帝国が成立したことを知る。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<ul style="list-style-type: none"> ・上座部仏教と大乘仏教の相違を理解するとともに、それぞれの諸地域への伝播の様子について地図を用いて理解する。 <p>[東南アジアの地理的特質と国家形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半島部と島嶼部の地形的な特徴や産業の様子を理解する。 ・半島部、島嶼部における諸国家の興亡と宗教的な特徴を理解する。 <p>[東アジア世界の地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の黄河流域と長江流域の気候と農業の特徴を理解する。 <p>[中華文明の起源と秦・漢帝国]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仰韶文化と竜山文化の特徴、殷と周の支配体制の特徴、甲骨文字の役割を理解する。 ・春秋戦国時代の政治勢力の興亡、農業技術と貨幣経済の発展、諸子百家の代表的な思想の特徴を理解する。 ・秦の始皇帝の統治政策、漢の統治政策の推移、武帝の時代の対外遠征、漢代の文化の特徴などを理解する。 <p>[内陸アジアの地理的特質と遊牧国家の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青銅製の馬具や武器を持った騎馬遊牧民の活動の特徴を理解する。 ・匈奴が冒頓単于の時代に強大化し、漢を圧迫した経緯やその後、漢の武帝の遠征を受け衰退した経緯を理解する。 ・三国時代・五胡十六国時代・南北朝時代の諸国家の興亡や社会経済の変化、魏晉南北朝の文化の特徴を理解する。 <p>[唐帝国と東アジア諸民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・均田制・租庸調制・府兵制・科挙を基盤とした隋・唐帝国の支配体制と唐代の国際性豊かな文化の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教成立の社会的背景や南アジアで仏教が衰退していった歴史的過程を理解する。 <p>[東南アジアの地理的特質と国家形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海路を利用した交易活動が盛んに行われていたことを、具体的な事例を挙げて説明できる。 ・東南アジア世界における南アジア文明や中華文明の受容の様子を具体的な事例を挙げて説明できる。 <p>[東アジア世界の地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方民族による農耕地帯への侵入が、東アジアの国家と民族の動きに影響を与えていくことを理解する。 ・中華文明の起源と秦・漢帝国] ・殷と周の支配体制の特徴を比較して説明できる。 ・春秋戦国時代の社会変動の様子を具体的な事例を挙げて説明できる。 ・秦と漢の統治政策を比較して、その相違を理解するとともに、東アジアに冊封体制が形成された意味を理解する。 ・遊牧国家の興亡を遊牧民の活動単位から説明できる。 ・匈奴の勢力の推移について、高祖と武帝の政策の違いから説明できる。 ・張騫の派遣をきっかけに、オアシスの道が形成され、西方世界との交易路として発展していくことを理解する。 ・江南地方の開発の歴史的な意義を説明できる。 <p>[唐帝国と東アジア諸民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐末の混乱の中で、唐の諸制度の変化について理解する。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>(3) ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p> <p>ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p>	<p>・唐が支配体制を整え、周辺諸国との間に安定した関係を結び、東アジア世界と内陸アジア世界を含む政治的秩序を形成したことを知る。</p> <p>・日本や新羅、渤海が唐の政治制度や文化を取り入れることで国家体制の整備を進めたことを知る。</p> <p>・設定した主題について、年表や模式図にまとめ、歴史的事象の前後関係を把握して、因果関係を明らかにすることができる。</p> <p>[アラブ人とイスラーム帝国の発展] ・7世紀の西アジアの情勢とムハンマドの活動から、イスラーム成立の背景と特質を知る。</p> <p>・カリフの指導下におけるウマイヤ朝、アッバース朝それぞれの支配地域を確認するとともに、アッバース朝でイスラーム法に基づく国家体制が確立し、ムスリム商人を中心とした交易活動が活発化したことを知る。</p> <p>・9世紀以降、アッバース朝の政治的衰退に伴ってイスラーム帝国の統一性が失われる中、アラビア語によるコーランの読誦と、経済・文化による交流がムスリムの連携を維持させたことを知る。</p> <p>[トルコ系民族の活動] ・トルコ系民族が内陸アジアから西アジア・南アジア北部に進出したことを知る。</p> <p>[アフリカ・南アジアのイスラーム化] ・ムスリム商人とスーフィー教団により、東西アフリカや、南アジア・東南アジアのイスラーム化が進んだことを知る。</p> <p>[イスラーム文明] ・イスラーム文明は、古代の西アジア文明の上に、</p>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>・突厥・ウイグル・吐蕃・南詔などの周辺国家の特徴と唐との関係を理解する。</p> <p>・新羅による朝鮮半島の統一の歴史的過程を理解する。</p> <p>[アラブ人とイスラーム帝国の発展] ・「コーラン」、イスラーム暦、六信五行などイスラーム教の特徴を理解する。</p> <p>・正統カリフ時代、ウマイヤ朝、アッバース朝におけるジハードの展開と統治政策を理解する。</p> <p>・エジプトに展開したファーティマ朝、アイユーブ朝、マムルーク朝の興亡を理解するとともに、イスラーム世界の中心がバグダードからカイロに移ったことを理解する。</p> <p>[トルコ系民族の活動] ・セルジューク朝、カラハン朝、ガズナ朝などのトルコ系国家の興亡やイル=ハン国による西アジア支配について理解する。</p> <p>[アフリカ・南アジアのイスラーム化] ・デリーに本拠を置いたインドのイスラーム諸王朝の興亡、東南アジアにおけるマラッカ王国、アフリカにおけるマリ王国やソンガイ王国の興亡を理解する。</p> <p>[イスラーム文明] ・固有の学問と外来の学問について、具体的な事例</p>	<p>・東アジア文化圏を構成する諸地域の共通性と独自性を、具体的事例を挙げて説明できる。</p> <p>・日本が遣隋使・遣唐使を派遣し、強固な国家体制の整備を進めるため、隋・唐帝国の政治制度を取り入れたことを説明できる。</p> <p>[アラブ人とイスラーム帝国の発展] ・6世紀後半以降のアラビア半島の経済的重要性を周辺情勢から説明できる。</p> <p>・アッバース朝が「イスラーム帝国」と呼ばれる理由をウマイヤ朝との比較から理解する。</p> <p>・イスラーム世界の中心がバグダードからカイロに移った背景について理解する。</p> <p>[トルコ系民族の活動] ・セルジューク朝以降、西アジアにイクター制が広く試行された背景を理解する。</p> <p>[アフリカ・南アジアのイスラーム化] ・ムスリム商人の活動について、通商ルートを明示しながら具体的に説明できる。</p> <p>[イスラーム文明] ・ギリシア語文献のアラビア語翻訳という、学術・</p>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開</p> <p>ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p> <p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界</p> <p>内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p>	<p>ユーラシア各地の伝統的・民族的要素を加えた融合文化であり、自然科学や哲学の分野で、ヨーロッパや中国に影響を与えたことを知る。</p> <p>[ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビザンツ帝国が次第にギリシア化した過程と、コンスタンティノープルがヨーロッパとアジア、地中海と黒海の中継点として経済的に繁栄したことを知る。 ・東ヨーロッパ各地にスラヴ人国家が建設され、ビザンツ文化・ギリシア正教・ローマ=カトリックを受け入れるなど、多様な性格をもつ世界となったことを知る。 <p>[西ヨーロッパの封建社会の成立と変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西ヨーロッパ世界では、ビザンツ帝国に対して独自性が確立し、イスラーム勢力やノルマン人と対抗する中で、封建社会が成立したことを知る。 ・西ヨーロッパでは、農業技術の革新と生産性の向上、商業や都市の発達を背景に11世紀から13世紀にかけて封建社会が変容し、14世紀以降には国王による中央集権化が進んだことを知る。 <p>[キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教会や修道院の果たした役割、日常生活とキリスト教とのかかわりを知るとともに、イスラーム文明がヨーロッパ文明に大きな影響を与えたことを知る。 <p>[内陸アジア諸民族と宋の抗争]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トルコ系民族が、内陸アジア西部のパミール高原を挟む広大な地域に移動・定住し、やがてイスラームを受け入れたことを知る。 ・内陸アジア東部から中国東北部、華北一帯では、契丹や女真が宋と政治的・軍事的に対立しながらも交易を行ったことを知る。 ・中国では宋代に産業や文化が発達し、商業都市が栄えており、日宋貿易が活発になったことを知る。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>に即して理解する。</p> <p>[ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユスティニアヌス帝時代のビザンツ帝国の繁栄と、ユスティニアヌス帝死後のビザンツ帝国の衰退の過程を理解する。 ・スラヴ人国家の興亡を理解するとともに、東スラヴ・南スラヴの諸民族がビザンツ文化とギリシア正教を、西スラヴ人が西欧文化とローマ=カトリックの影響を受けたことを理解する。 <p>[西ヨーロッパの封建社会の成立と変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲルマン人の大移動後にフランク王国が強大化し、ローマ=カトリック教会と提携することで、西ヨーロッパ世界の中心勢力となったことを理解する。 ・封建社会における荘園の構造と封建的主従関係による階層組織を理解する。 ・十字軍の活動をはじめとする11世紀以降の西ヨーロッパ世界の拡大、中世都市の特徴、封建社会の変容について理解する。 ・教皇権の衰退の過程と各国における国王権の伸長について理解する。 <p>[キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教を中心とした中世ヨーロッパ文化について、具体的な事例から理解する。 <p>[内陸アジア諸民族と宋の抗争]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソグド人の活動とトルキスタンの成立、トルコ人のイスラーム化の過程を理解する。 ・契丹・女真と宋との軍事的抗争と経済関係について理解するとともに、契丹・女真の二重統治体制の特徴を理解する。 ・宋の文治主義統治と士大夫との関連を理解する。 	<p>文芸の流れについて理解する。</p> <p>[ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビザンツ帝国の統治体制の特徴を西ヨーロッパ世界との比較から理解するとともに、軍管区制とプロノイア制が導入された背景を理解する。 ・東ヨーロッパにおいて、ポーランドからモスクワ大公国に覇権が移っていく歴史的過程を理解する。 <p>[西ヨーロッパの封建社会の成立と変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランク王国とローマ=カトリック教会の提携の歴史的意義を理解するとともに、地中海世界が西ヨーロッパ世界・東ヨーロッパ世界・イスラーム世界に分立していく歴史的過程を理解する。 ・イスラーム勢力・マジャール人・ノルマン人の活動が封建社会の形成に与えた影響を理解する。 ・貨幣経済の浸透が封建社会の変容と国王による中央集権化に与えた影響について理解する。 ・教皇権の隆盛と衰退の過程について具体的事例を挙げて説明できる。 <p>[キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギリシア語文献やアラビア語文献がラテン語に翻訳され、12世紀ルネサンスに発展したことを説明できる。 <p>[内陸アジア諸民族と宋の抗争]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タラス河畔の戦いの歴史的意義について説明できる。 ・これまでの北方民族と比較して、契丹や女真が民族としての独自性を維持できた理由を理解する。 ・唐末・五代・宋の転換期における社会の変動と支配者層の交替について理解する。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>(4) アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p>	<p>[モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルが、13世紀に朝鮮半島からロシア平原に及ぶ広大な地域を支配した過程やその世界帝国が元を中心とした諸ハン国との連合体に再編されたことを知る。 ・元がユーラシアを海域と内陸で循環する交通・交易体系をつくりあげたことを知る。 ・14世紀半ば、モンゴル帝国の解体により、明やティムール、ムガル、ロシアなどが誕生し、直接モンゴルの支配が及ばなかった日本や東南アジアなどの地域でも国家・社会の変容と再編が進んだことを知る。 ・同時代性に着目して設定した主題について、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどして、歴史的事象の空間的關係を把握し、その時代の世界の特質や地域世界相互のかかわりを明らかにすることができる。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<ul style="list-style-type: none"> ・宋代の都市の発達と貨幣経済の進展、南宋時代の江南の開発について理解する。 ・宋代の文化について、宋学・思想・美術・工芸を中心に理解する。 <p>[モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸ハン国と元の関係を理解し、各領域を地図上で表現できる。 ・元の中国支配の特徴を理解する。 ・駅伝制が発達したモンゴルの陸上交通路と宋代の海上交通路が結び付き、広大なネットワークが形成されたことを理解する。 ・元及び諸ハン国の解体の過程と勃興勢力について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宋代に発達した都市の特徴を唐代までの都市と比較して理解する。 ・宋学が成立した社会的背景と国際情勢を理解する。 ・朱子学が儒学の正統となり、朝鮮・日本で官学化されたことを理解する。 <p>[モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル軍の強力な軍事力の基盤となった部族制について理解する。 ・元の通貨制度の特徴とそれが元の衰退の原因となった理由について理解する。 ・モンゴル時代の東西交流について、具体的な人物や文化を挙げて説明できる。 ・モンゴルの勢力拡大が日本・東南アジアの再編に与えた影響を理解する。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。</p>	<p>[西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向] ・オスマン・ムガルのイスラーム諸帝国は、皇帝権と官僚制を発達させる一方で、非ムスリムには柔軟な統治を行ったことを知る。</p> <p>・東南アジア島嶼部における16世紀の香辛料貿易と、17世紀後半以降のヨーロッパの支配の進行、大陸部の農業国家の中国や琉球などとの交易について知る。</p> <p>[明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係] ・明の朝貢（＝冊封）体制と、北虜南倭への対応を知る。</p> <p>・16世紀以降、交易の利権をめぐる抗争の中で女真による清帝国の建設と、日本の朝鮮出兵があったことを知る。</p>
<p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p>	<p>[ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立] ・ルネサンスが人間性の解放を求め、個性を尊重しようとする文化運動で、イタリアからヨーロッパ各地に広がったことを知る。</p> <p>・カトリック教会を批判する宗教改革の運動が、ドイツからヨーロッパ各地に広がったことを知る。</p> <p>・17世紀には、主権国家体制が形成され、オランダ・イギリス・フランスなどの国々が有力となったことを知る。</p> <p>[世界各地への進出と大西洋世界の形成] ・15世紀後半以降のアジア・アメリカ・アフリカに対するヨーロッパの対外進出とその影響について知る。</p> <p>・17・18世紀に、オランダ・イギリス・フランスなどが世界の諸地域に進出し、重商主義に基づく経済活動と植民地争奪戦争を展開したことを知る。</p>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>[西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向] ・ティムール朝の興亡とトルコ＝イスラーム文化の繁栄を理解する。 ・オスマン帝国の興亡と国家体制について理解する。 ・ムガル帝国のインド統治について、その宗教政策の変化や、宗教政策と地方勢力の台頭を理解する。 ・ポルトガルやスペインの東南アジア進出とムスリム商人の活動について理解する。</p> <p>[明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係] ・明の成立と明初の統治体制について理解する。 ・明の海禁政策と朝貢体制の確立、北虜南倭への対応が朝貢体制に与えた影響について理解する。 ・清の中国統治の特徴や支配領域の拡大と周辺地域の統治について理解する。 ・日本について、勘合貿易、朝鮮出兵、「鎖国」体制下の海外交易について理解する。</p>	<p>[西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向] ・ティムール朝におけるトルコ＝イスラーム文化の繁栄の背景を理解する。 ・「ゆるやかな専制」を可能としたオスマン帝国の多民族国家統治の特色を理解する。 ・インドにおける新宗教の成立の背景と影響を理解する。 ・銀を媒介とした交易の拡大について理解する。</p> <p>[明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係] ・国際商業の活発化が明の商工業や社会に与えた影響について理解する。 ・明末清初のイエズス会宣教師の来航が中国に与えた影響と中国文化がヨーロッパ文化に与えた影響について、具体的事例を挙げて説明できる。</p>
<p>[ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立] ・思想・芸術・科学などの分野におけるルネサンスの展開を理解する。</p> <p>・ドイツ・スイス・イギリスの宗教改革と対抗宗教改革の具体的な展開を理解する。</p> <p>・スペイン・オランダ・イギリス・フランス各国の興亡と三十年戦争の経過と結果を理解する。</p> <p>[世界各地への進出と大西洋世界の形成] ・ヨーロッパ人による探検の事績を地図上で確認できるとともに、大航海時代の影響として商業革命と価格革命について理解する。 ・アジア市場におけるポルトガル・スペイン・オランダ・イギリス・フランス各国による覇権争いについて理解する。 ・アメリカにおける英仏の植民地争奪を理解する。</p>	<p>[ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立] ・ルネサンスの近代的側面と中世的な側面について理解する。</p> <p>・カルヴァンの教えが商工業者に受け入れられた理由とその後の社会の進展に与えた影響を理解する。 ・ハプスブルク家とフランス王家の対立を軸に、ヨーロッパ主権国家体制の形成と展開を理解する。</p> <p>[世界各地への進出と大西洋世界の形成] ・商業革命の結果、ヨーロッパにおける東西の分業体制が形成されたことを理解する。 ・英仏の植民地争奪戦をヨーロッパにおける戦争と関連付けて理解する。 ・大西洋世界に形成された大陸間分業体制が西ヨー</p>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>ウ 産業社会と国民国家の形成</p> <p>産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。</p>	<p>・ヨーロッパ、西アフリカ、アメリカを結ぶ三角貿易が発達し、西ヨーロッパを中心とする大陸間分業体制が確立したことを知る。</p> <p>[17～18世紀のヨーロッパ文化]</p> <p>・合理主義、経験主義を背景とした科学革命、主権国家体制を背景とした国際法、貴族社会を背景としたバロックやロココの芸術などについて知る。</p> <p>[産業革命]</p> <p>・イギリス産業革命における世界的な背景や繊維部門の技術革新、交通革命、産業資本主義の確立を知るとともに、労働運動や社会主義思想が生まれたことを知る。</p> <p>[フランス革命、アメリカ諸国の独立]</p> <p>・18世紀における経済的変化や啓蒙思想を背景に、アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながら起こり、その結果として西ヨーロッパとアメリカ合衆国に近代民主主義社会の基礎が成立したことを知る。</p> <p>[19世紀のヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革]</p> <p>・ウィーン体制下で自由主義・国民主義運動が拡大し、イタリアやドイツでは国民国家の形成が促されたが、ロシアやオーストリアでは、皇帝主導の近代的改革に限界があったことを知る。</p> <p>・アメリカ南北戦争と、その後の奴隷制、人種・民族問題と、ラテンアメリカ諸国の状況を知る。</p>
<p>エ 世界市場の形成と日本</p> <p>世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進</p>	<p>[世界市場の形成とヨーロッパ諸国のアジア進出]</p> <p>・イギリス自由貿易と、保護貿易国が対抗して市場</p>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>・アメリカにおける砂糖やタバコのプランテーションにアフリカ系奴隷が労働力として使役された背景を理解する。</p> <p>[17～18世紀のヨーロッパ文化]</p> <p>・経験論、合理論、ドイツ観念論、自然法思想、啓蒙思想の各思想家の思想について理解する。</p> <p>[産業革命]</p> <p>・イギリスで最初に産業革命が起こった理由を理解する。</p> <p>・産業革命の結果発生した労働問題や社会問題を理解する。</p> <p>[フランス革命、アメリカ諸国の独立]</p> <p>・13植民地の形成からアメリカ合衆国の成立までの過程を、諸外国の動きを含めて理解する。</p> <p>・フランス革命の勃発から進展の過程を、革命を主導した社会層の変化に着目しながら理解する。</p> <p>・ナポレオンの国内政策と征服活動について理解する。</p> <p>・ラテンアメリカ諸国の独立の経過を理解できる。</p> <p>[19世紀のヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革]</p> <p>・ウィーン体制の成立から動揺・崩壊の過程を理解する。</p> <p>・1848年にヨーロッパ各地で起こった一連の革命・民族運動の経緯を理解する。</p> <p>・東方問題とロシアの南下政策、ロシアの改革について理解する。</p> <p>・イタリアとドイツの統一運動の過程を理解するとともに、ビスマルク外交のねらいと内容を理解する。</p> <p>・アメリカ合衆国の領土拡大の過程や南北戦争後の経済的発展について理解する。</p> <p>[世界市場の形成とヨーロッパ諸国のアジア進出]</p> <p>・国際的分業体制におけるアジア諸国の位置付けに</p>	<p>ロッパ、アメリカ、アフリカ各地域に与えた影響について理解する。</p> <p>[17～18世紀のヨーロッパ文化]</p> <p>・近代合理主義の思想や学問がその後の社会に与えた影響を理解する。</p> <p>[産業革命]</p> <p>・世界各国の産業革命の様子と産業革命がもたらした世界的変化について理解する。</p> <p>[フランス革命、アメリカ諸国の独立]</p> <p>・独立戦争の社会革命としての側面や、その後のフランス革命やラテンアメリカ諸国の独立に与えた影響を理解する。</p> <p>・フランス革命が急進化していった社会背景を理解する。</p> <p>・ナポレオンの政権獲得とブルジョワジーの利害との関係や、ナポレオンの征服活動と各国のナショナリズムの勃興との関係を理解する。</p> <p>・ラテンアメリカ諸国の独立がヨーロッパのウィーン体制に与えた影響を理解する。</p> <p>[19世紀のヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革]</p> <p>・ウィーン体制下においてイギリスとロシアが果たした役割と影響について理解する。</p> <p>・1848年の革命の限界点や、東西ヨーロッパでの内容の違い等について理解する。</p> <p>・クリミア戦争の世界史的意義を理解する。</p> <p>・イタリアとドイツの統一の背景となったヨーロッパの国際情勢の変化について理解する。</p> <p>・アメリカ合衆国における民主主義の発展の影にあってインディアンや黒人、移民の問題を理解する。</p> <p>[世界市場の形成とヨーロッパ諸国のアジア進出]</p> <p>・アジア諸国がヨーロッパ勢力の進出の中で、経済・</p>
<p>・国際的分業体制におけるアジア諸国の位置付けに</p>	<p>・アジア諸国がヨーロッパ勢力の進出の中で、経済・</p>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置付けを理解させる。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p>	<p>の拡大を目指し諸地域に進出した結果、アジア諸国は伝統的な手工業や農村経済が打撃を受け、国際的分業体制に組み込まれていったことを知る。 [オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国が国内の民族・宗教的対立とヨーロッパ諸国の干渉で衰退していったことと一時的な改革が行われたことを知る。 ・インドでは、イギリスによる植民地化が進み、インド大反乱後にムガル帝国が滅亡し、イギリス支配下でインド帝国が成立したことを知る。 ・東南アジアではオランダ・イギリス・フランスによる植民地化が進み、タイのみが独立を維持していたことを知る。 ・中国においては、イギリスを先頭とするヨーロッパ諸国の進出が強まり、アヘン戦争・アロー戦争などを通じて半植民地化が進行する中で、太平天国のような民族運動や洋務運動のような近代化運動が起きたことを知る。 ・日本が、開国後明治維新を経て、ヨーロッパ文明の導入と近代化を進めたことを知る。 <p>・設定した主題にかかわる文字資料や、絵画、風刺画、写真などの図像資料を取り上げ、内容、糸、狙いなどについて考察し、その時代の人々が自分たちの時代や社会をどうとらえ、どう表現しようとしたかを理解することができる。</p>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>ついて理解する。</p> <p>[オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西アジアにおいてワッハブ派やウラービー運動、バーク運動に見られるイスラーム改革運動やアラブ民族運動が起きたことについて理解する。 ・インドの植民地化を進める中で、イギリス東アジア会社の性格が変化していったことを理解する。 ・東南アジア諸地域でヨーロッパ諸国が大規模なプランテーション経営を展開したこととその影響を理解する。 ・アヘン戦争に至るイギリスの対中国政策の推移、南京条約・北京条約の内容について理解する。 ・太平天国の運動の民族主義的性格について理解するとともに、その後に展開された洋務運動の限界について理解する。 ・明治維新により近代化を進めた日本の対外政策について理解する。 	<p>社会の変容を迫られたことを具体的な事例を挙げて説明できる。</p> <p>[オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パン＝イスラーム主義が唱えられ、全世界のイスラームが政治的に結束しようとしたことを理解する。 ・オスマン帝国の西欧化改革が外国資本への従属につながった要因を理解する。 ・イギリスによるインド支配の特徴やイギリスが用いた土地政策とインドの村落社会の解体の関係について理解する。 ・タイが独立を維持できた背景を国際情勢との関連で理解する。 ・中国の伝統的な中華思想がイギリスの自由貿易の実現の妨げになっていったことを具体的な事例を挙げて説明できる。 ・太平天国が勢力を拡大した社会的背景について理解する。 ・洋務運動と明治維新を比較し、その相違を理解する。 ・日清戦争の結果が、その後の東アジア世界に与えた影響を理解する。

学習指導要領		スタンダード「基礎」
(5) 地球世界の到来	<p>科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p>	<p>[科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展]</p> <ul style="list-style-type: none"> 19世紀後期の科学技術の発達が、欧米諸国で第二次産業革命の進展を促し、企業による寡占化と資本の集中・集積が進んだことを知る。 <p>[帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 欧米諸国が工業製品や資本の輸出先を求めて、世界各地に進出し、植民地や勢力圏の獲得競争を展開したことを知る。 欧米諸国の支配を受けたアジア・アフリカで民族意識が覚醒し、マフディー派の抵抗、義和団、インド国民会議派の運動など、ナショナリズムの運動が起こったことを知る。 日本では日清戦争、日露戦争を経て近代産業が成立し、不平等条約が改正されたことを知る。 <p>[国際的な移民の増加]</p> <ul style="list-style-type: none"> 19世紀後半、ヨーロッパからアメリカやオセアニアへの大規模な移住が見られたことや、中国や南アジアなどから移民労働者が大量に世界の労働力市場に供給されたことを知る。
	<p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p>	<p>[第一次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の勃発に至る経緯を知るとともに、第一次世界大戦が総力戦としての性格をもっていたことを知る。 <p>[ロシア革命とソヴィエト連邦の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ロシア革命の過程と、それによって成立したソヴィエト連邦が世界に与えた影響について知る。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>[科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展]</p> <ul style="list-style-type: none"> (第一次)産業革命と比較して、第二次産業革命の特質を理解するとともに、第二次産業革命の結果、市場を独占した巨大企業の諸形態と、その特色を理解する。 <p>[帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 欧米各国の帝国主義政策と国内政策を理解するとともに、欧米諸国間の世界分割競争の経緯と結果を理解する。 欧米諸国の支配が強まる中で起きた、辛亥革命、国民会議派の形成、ドズー運動、青年トルコ革命、イラン立憲革命などの近代化を目指した運動の経緯を理解する。 日清戦争から日露戦争に至る経緯について、日本とロシアの対立の背景から理解する。 <p>[国際的な移民の増加]</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界規模での移民が増加した背景を理解する。 <p>[第一次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦中の戦時外交、総力戦における統制経済について理解する。 <p>[ロシア革命とソヴィエト連邦の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> 対ソ干渉戦争とソヴィエト政権の経済政策について理解する。 	<p>[科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二次産業革命の進展が、各欧米諸国間の帝国主義的対立を生んだ経緯を、1870年代の大不況を含めて説明できる。 欧米諸国で国民意識が醸成されていった背景に、公教育と軍隊組織の整備があったことを理解する。 <p>[帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 帝国主義列強の対立が激化する中で、イギリスとドイツを中心とする二つの陣営からなる国際対立が形成されていったことを理解する。 アジア・アフリカで起こったナショナリズムの運動と近代化を目指した運動の限界について理解する。 日露戦争の世界史的意義を帝国主義列強間の対立と、アジア・アフリカ諸国の民族運動への影響という視点から理解する。 <p>[国際的な移民の増加]</p> <ul style="list-style-type: none"> 増加する移民とそれともなっ各地で起こった移民差別の問題について理解する。 <p>[第一次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の結果もたらされた政治・経済・国際関係の在り方についての変化を理解する。 <p>[ロシア革命とソヴィエト連邦の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ロシア革命における各勢力の政策の違いや二月革命と十月革命の性格の違いを理解する。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
	<p>[大衆社会の出現とファシズム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大戦後に国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制が成立し、大戦前と国際秩序が変化したことを知る。 ・戦間期において、アメリカ合衆国が国際的影響力を急速に増し、その大量生産・大量消費の生活様式が欧米諸国や日本に波及し、大衆社会が出現したことを知る。 ・大衆の政治参加がイタリア・ドイツでファシズムを生むなど、当時の国家や社会、文化に大きな影響を与えたことや同時期に日本の軍部の台頭やソヴィエト連邦におけるスターリンの独裁が生じたことを知る。 <p>[第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後に、中国での五・四運動、インドでのガンディーや国民会議派による運動、トルコでのトルコ革命など大衆的基盤をもつ民族運動が発生したことを知る。 <p>[世界恐慌とその後の世界情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌が資本主義諸国に深刻な打撃を与え、アメリカ合衆国のニューディール政策やイギリスのブロック経済政策など、各国で様々な恐慌対策がとられたことを知る。 ・世界恐慌の深刻な影響を受けた日本・ドイツ・イタリアが満州事変や日中戦争、ラインラント進駐、エチオピア侵攻を起こしたことを知る。 ・世界恐慌の中で、ソヴィエト連邦が五カ年計画の下、工業生産を増大させていったことを知る。 <p>[第二次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦について、ヨーロッパの戦争から始まり、太平洋地域に戦争が拡大し、戦場が広域化していった過程、核兵器がもたらした甚大な被害、戦争の様相が多数の民間人を含む膨大な犠牲をもたらしたことを知る。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>[大衆社会の出現とファシズム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヴェルサイユ・ワシントン体制下で進んだ国際協調の流れを理解する。 ・1920年代のアメリカ合衆国の「永遠の繁栄」と呼ばれた政治・経済の成熟を理解する。 ・イタリアでムッソリーニが一党独裁体制を確立していった過程を理解する。 ・ソヴィエト連邦でスターリンが一国社会主義論を唱え、独裁権を握っていった過程を理解する。 <p>[第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国における国民党と共産党の対立、インドにおける国民会議派と全インド=ムスリム連盟の対立について理解する。 <p>[世界恐慌とその後の世界情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌による各国の経済的な打撃を具体的な指標から理解するとともに、アメリカ合衆国のニューディール政策の進展について理解する。 ・満州事変から日中戦争に至る過程やナチス=ドイツが独裁権を確立していった過程を理解する。 ・スターリンの独裁体制が確立していった時期のソヴィエト連邦の外交政策について理解する。 <p>[第二次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペイン内戦から第二次世界大戦勃発前までのヨーロッパの国際情勢について理解する。 ・ヨーロッパにおけるドイツの勢力拡大と、アジア・太平洋地域における日本の勢力拡大を地図上で理解する。 ・第二次世界大戦中に行われた首脳会談の内容について理解する。 	<p>[大衆社会の出現とファシズム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドーズ案成立後の資本の国際循環について理解する。 ・1920年代のアメリカ合衆国で見られた保守的な傾向について、具体的な事例を挙げて説明できる。 ・イタリアでファシズムが大衆的支持を受けるに至った背景をヴェルサイユ体制や当時の経済情勢から理解する。 ・スターリンの独裁体制が進む過程でコミンテルンの性格が変化していったことを理解する。 <p>[第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大衆的基盤をもつ民族運動の中で、第二次世界大戦後の各国の指導者が台頭してきたことを具体的な事例を挙げて説明できる。 <p>[世界恐慌とその後の世界情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各国がブロック経済政策を進めるに至った背景と、ブロック経済政策が世界情勢に与えた影響について理解する。 ・日本の軍部の台頭、イタリア・ドイツのファシズム諸国の動きを、世界恐慌の影響と関連付けて理解する。 ・スターリンの個人崇拜が進められていった社会背景について理解する。 <p>[第二次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独ソ不可侵条約と日ソ中立条約が第二次世界大戦にもたらした意味を理解する。 ・1941年の独ソ戦と太平洋戦争の開始が第二次世界大戦に世界戦争としての性格をもたらしたことを理解する。 ・第二次世界大戦の複合的な性格について理解する。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>ウ 米ソ冷戦と第三世界</p> <p>米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察させる。</p>	<p>[米ソ両陣営による冷戦の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際連盟に代わり国際連合が結成され、また敗戦国の処理が進められる中で戦後の世界秩序が形成されていったことを知る。 ・第二次世界大戦後、東欧諸国に社会主義政権が誕生しソヴィエト連邦の影響力が拡大したのに対し、アメリカ合衆国が西欧諸国への経済援助を強化して「対ソ封じ込め」を図ったことを知る。 ・米ソ両国が核兵器の力を背景にそれぞれ経済協力と集団安全保障の体制を樹立して自陣営の強化を図る中で、対立関係が非ヨーロッパ世界にも拡大し、朝鮮戦争など様々な紛争を引き起こしたことを知る。 <p>[戦後の復興と経済発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西欧諸国や日本で、アメリカ合衆国の支援と安定した国際貿易体制に支えられ経済復興を成し遂げたことや、その後西ドイツと日本では高い経済成長が見られたことを知る。 <p>[アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後、民族独立運動がアジアからアフリカへと段階的に波及し、1960年代には植民地の大半が独立を達成したことを知る。 ・アジア・アフリカ諸国が国際社会において第三世界として発言力を増すとともに、平和共存を模索し、植民地支配の終焉に大きな役割を果たしたことを知る。 ・アジア・アフリカ諸国の経済的自立は容易ではなく、先進諸国との経済格差が拡大し、南北問題として認識されるようになったことを知る。 <p>[平和共存の模索]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヴェトナム戦争などでアメリカ合衆国の経済状況が悪化する中、EC諸国や日本の経済が急成長し、また中ソ対立の深刻化やチェコスロヴァキアの改革に対するソヴィエト連邦などの軍事介入により、両陣営内での米ソの指導力にかげりが見え始め、国際政治は多極化に向かったことを知る。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>[米ソ両陣営による冷戦の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際連合の主要機関の役割とともに、国際的な経済・金融の協力体制の形成について理解する。 ・戦後の東・西ヨーロッパの情勢とトルーマン=ドクトリンやマーシャル=プランが出された経緯を理解する。 <p>・ドイツの東西分断、中華人民共和国の成立、ヴェトナムの情勢、朝鮮戦争などから冷戦体制が世界化していく過程を理解する。</p> <p>[戦後の復興と経済発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西ヨーロッパ統合の流れを理解する。 <p>・日本が朝鮮特需で経済復興を果たし、ソ連との国交回復と国際連合加盟で国際社会への復帰を果たした過程を理解する。</p> <p>[アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジア・南アジア・西アジア諸国の独立の過程とアフリカ諸国の独立が進み、1960年が「アフリカの年」と呼ばれたことを理解する。 ・平和五原則の提唱、アジア=アフリカ会議や非同盟諸国首脳会議の開催がもつ歴史的意義を理解する。 <p>・アジア・アフリカの新興独立国の多くが慢性的な貧困に苦しみ、国際機関や欧米諸国の援助に依存せざるを得なかったことを理解する。</p> <p>[平和共存の模索]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キューバ危機を契機に米ソの緊張緩和の方向が現れ、核兵器の拡大を制限する交渉が始まったことを理解する。 ・1950年代の「スターリン批判」やハンガリー事件、1960年代の「プラハの春」をめぐる動きなど、東側陣営の変化を理解する。 	<p>[米ソ両陣営による冷戦の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツと日本の戦後処理の違いについて理解する。 ・冷戦の構造が政治体制とイデオロギーの対立であることと冷戦状態が継続した背景に核の抑止力が働いていたことを理解する。 <p>・冷戦体制の激化がアメリカ合衆国の対日占領政策に与えた影響や日本が西側陣営に組み込まれていく過程を理解する。</p> <p>[戦後の復興と経済発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランスとドイツの歴史的和解が西ヨーロッパ統合の推進力になったことを、歴史的な経緯を踏まえて理解する。 ・国際社会への復帰を果たした日本の課題を説明できる。 <p>[アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中東戦争の経過を第一次世界大戦時の秘密外交から理解する。 ・第三世界の台頭が国際情勢に与えた影響を具体的な事例を挙げて説明できる。 <p>・アフリカの新興独立国で、部族対立がくりかえされたり、軍事独裁体制が登場したりする背景を理解する。</p> <p>[平和共存の模索]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民権運動やヴェトナム反戦運動がアメリカ合衆国の社会に与えた影響を理解する。 ・米ソ両国の自陣営における相対的な地位の低下を具体的な事例を挙げて説明できる。

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p>	<p>[市場経済のグローバル化とアジア経済の成長] ・1970年代に入り、アメリカ合衆国主導の国際通貨体制が瓦解して変動相場制に移行し、二度の石油危機が欧米諸国や日本に大きな打撃を与えたことを知る。 ・1980年代以降、先進工業国が産業構造を転換し、途上国への工場移転を図る一方で、中国やアジアの新興工業地域が欧米諸国や日本から技術や資本を導入して輸出志向の工業化に乗り出し、急成長を遂げたことを知る。</p> <p>[冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体] ・社会主義計画経済の立ち遅れが明らかになり、東欧やアジアの社会主義国でも経済開放政策が採用され、市場経済の世界化が一層進んだことを知る。 ・ソヴィエト連邦では経済の行き詰まりを立て直すためペレストロイカを行ったが、経済状況は改善せず、むしろ東欧諸国の改革に拍車がかかり、1980年代末には東欧諸国でも社会主義体制が崩壊し、冷戦が終結するとともに、ソヴィエト連邦が解体されたことを知る。</p> <p>[地域統合の進展] ・冷戦終結後の国際経済の連携の動きの中で、EUやASEANなど地域統合や地域協力を目指す動きが世界各地で進行していることを知る</p>
<p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>[地球的諸課題をめぐる問題] ・冷戦終結後に激化した旧ユーゴスラヴィア内戦、アフリカのソマリア内戦や、第二次世界大戦直後から続いているパレスチナ紛争などの地域紛争が世界各地で頻発していることを知る。 ・地球の温暖化や大気汚染、森林の消滅などの環境や資源・エネルギー問題が地球世界の切実な課題であることを知る。</p>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>・中ソ対立の推移とプロレタリア文化大革命後の中国の変化を理解する。 ・ヴェトナム戦争の経過と結果、アメリカ合衆国の経済に与えた影響を理解する。</p> <p>[市場経済のグローバル化とアジア経済の成長] ・アメリカ合衆国の貿易収支が赤字になった背景を理解する。 ・第四次中東戦争の勃発と第一次石油危機の発生を理解する。 ・先進工業国で、省エネ対策、代替エネルギーの開発、先進技術開発が進む中で、貿易摩擦が激化したことを理解する。</p> <p>[冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体] ・中国における改革・開放路線の推進と天安門事件、ヴェトナムにおけるドイ=モイ政策の推進を理解する。 ・ソヴィエト連邦のペレストロイカが東欧諸国の民主化に与えた影響を理解する。 ・東欧諸国の民主化、冷戦の終結、ソヴィエト連邦の解体の一連の歴史的過程を理解する。</p> <p>[地域統合の進展] ・EUの取組をECと比較し、EUの特徴を理解する。</p> <p>[地球的諸課題をめぐる問題] ・旧ユーゴスラヴィア内戦の原因と経過、結果を理解する。 ・2001年に発生した同時多発テロ事件とその後の対テロ戦争について理解する。 ・環境や資源・エネルギー問題が発生してきた歴史的背景を理解する。</p>	<p>[市場経済のグローバル化とアジア経済の成長] ・先進国首脳会議の開催が国際経済体制にもつ意味を理解する。 ・新興工業地域の発展が進む中で、途上国の中にも経済格差が生まれていったことを理解する。</p> <p>[冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体] ・アジア社会主義国の経済の自由化の進展が、政治的混迷や新たな社会問題を生んだことを理解する。 ・ソヴィエト連邦でペレストロイカが推進された背景を理解する。 ・東欧社会主義圏の消滅、ソヴィエト連邦の解体がもつ世界史的意味を、冷戦終結後の世界の状況を示しながら説明できる。</p> <p>[地域統合の進展] ・WTOに期待されている役割と、世界経済の多文化に対応するための新たな動きを具体的な事例を挙げて説明できる。</p> <p>[地球的諸課題をめぐる問題] ・国際連合の平和維持活動の展開と課題について具体的な事例を挙げて説明できる。 ・「多文化主義」の考え方が、様々な集団間の共存を求める動きに影響を与えていることを理解する。 ・環境や資源・エネルギー問題について、歴史的観点から具体的な事例を挙げて説明できる。</p>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
	<ul style="list-style-type: none">地球世界の課題に関して設定した主題について、資料を用いて探求し、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望することができる。

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」

教科：地理歷史 科目：世界史B